

完了報告書

事業完了日:2022年8月31日

事業ID:2021000588

事業名:千葉県における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの開設と運営支援
(1年目)

団体名:公益財団法人 ちばのWA地域づくり基金

1.事業内容

(1)助成契約書記載の事業内容(予定)

1.「子ども第三の居場所」開設支援(2カ所)
(1)場所:千葉県内2カ所(木更津市、東金市)
(2)内容:上記拠点の施設改修工事や備品購入等の助成等開設に係る支援

(2)事業完了時の事業内容(実績)

1.「子ども第三の居場所」開設支援(2カ所)
(1)場所:千葉県内2カ所(木更津市、東金市)
①木更津市:当初計画のとおり3月に「子ども第三の居場所」コミュニティモデルを開設して運営を開始した。
②東金市:「子ども第三の居場所」コミュニティモデルは9月から運用出来るように開設工事を完成させた。
(2)上記拠点の施設改修工事や備品購入等の助成等開設に係る支援を継続的に実施した。
(3)木更津市および東金市においてそれぞれ事業説明会を開催して、市、関係機関、地域住民に子ども第三の居場所の周知を図った。事業説明会の日程は以下のとおり。
①木更津市:2021年11月30日
②東金市:2021年11月20日

(3)成功したこととその要因

木更津市および東金市共に開設に向けた支援を行い、所定の成果を達成した。
木更津市の開設工事では、工事前から終了時まで週1回(水曜午後18時から開始)、工事施工業者、建築士、電気関係者等とスタッフとの定例ミーティングを開催して、工事の進捗状況と全体工程を確認し、双方の意見を調整しながら実施した。
東金市では、コロナ禍での人手不足や建設資機材のサプライチェーンの問題等 のために開設の工期が延長となったもの8月には開設工事を完了した。
大きな問題や大幅な遅延を回避できた理由として、特に開設に係る業務では事前の設計監理の手配、業者選定、建築士による施工監理等のモニタリングなどに重点を置いた必要な支援を実施した。これに加えて、月次面談や訪問などを通じて定期的に情報収集を行い進捗状況の把握、問題の解決に向けた支援をきめ細かく実施したことが効果的であったと考える。

(4)失敗したこととその要因

特になし。

別添の2021年度事業報告書に木更津市および東金市の活動を記載した。

■事業内容2

(1)契約時の事業内容

2.「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営支援(2カ所)
 (1)場所:千葉県内2カ所(木更津市、東金市)
 (2)内容:各施設における児童の生活支援や学習支援等の居場所運営支援。
 市町村と各施設運営団体との連携体制の構築、施設運営の向上のための支援、研修会の開催。また、千葉県との連携体制の協議・構築。

(2)事業内容の実施(完了)状況

2.「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営支援計画とおり千葉県内2カ所(木更津市、東金市)においてコミュニティモデルの運営支援を実施した。
 ①木更津市
 児童の生活支援や学習支援等の居場所運営支援および市、関係団体との連携体制の構築、施設運営の向上のための支援、研修会を開催した。また、法人設立に係る支援を行った。
 ②東金市
 2022年8月に開設工事が終了し、9月からコミュニティモデルを開設することが可能となった。なお、東金市では2022年4月から施設が完成するまで、既存の建物を活用して子ども第三の居場所をプレオープンして子ども第三の居場所の運営を継続的に進めている。
 また、市、関係団体との連携体制の構築、施設運営の向上のための支援、研修会を開催した。
 ③講演会の開催
 2022年3月7日にちばのWA主催、東金市の共催、東金市教育委員会および東金市社会福祉協議会が後援した子ども第三の居場所をテーマとした講演会を東金市中央公民館講堂で開催した。

(3)成功したこととその要因

これまでの活動によって、各地域の関係機関、地域住民等への子ども第三の居場所事業についての周知が進んだ。さらに木更津市および東金市の拠点運営団体の組織強化のための研修や定期的な面談、講演会を通して、各団体と自治体、地域の関係機関、小中学校との連携強化に係る支援を行って協力を得られる環境整備が出来た。
 木更津市では、継続的に社会福祉協議会、地区公民館、地域のまちづくり協議会、市役所等への事業の趣旨などを説明するなど地域とのつながりを行ってきたこと、ホームページ、Facebookなどをつかった情報発信を継続して行ってきたことで、行政、学校、関係機関との日常的な関係強化や回覧板を活用した地元住民への周知を行った。
 東金市では日常的な関係強化に加え、団体の広報誌「おひさま文庫新聞」の配布を通じて地元住民および行政、関係機関への周知が進んだ。

(4)失敗したこととその要因

特になし。

(5)事業内容詳細

別添の2021年度事業報告書に事業内容の詳細を記載した。

2.契約時事業目標の達成状況:

(1)助成契約書記載の目標

千葉県に2カ所のコミュニティモデルの拠点を設置・運営する団体が、助成期間中に組織基盤強化や事業改善、地域連携促進など伴走支援を行い、助成期間後(4年目)の事業継続と更なる発展ができるようにする。
 1. 2022年3月までに「子ども第三の居場所」コミュニティモデルを木更津市に開設する。
 2. 2022年9月まで(当初の7月から期間変更)に「子ども第三の居場所」コミュニティモデルを東金市に開設する。
 3. 運営開始までに関係各所(自治体・学校・SSWなど)へ事業の説明会を実施する。

(2)目標の達成状況【700文字以内】

| 入力文字数 | 392 | 文字数チェック | OK |
|---|-----|---------|----|
| 1.の達成度:100%。計画のとおり3月までに木更津市に「子ども第三の居場所」コミュニティモデルを木更津市に開設した。 2.の達成度:100%。2022年9月に「子ども第三の居場所」コミュニティモデルを東金市に開設することを可能にするため開設工事を8月に完成させた。既にプレオープンとして入所希望の子ども達を対象に活動を行っている。 3.の達成度:100%。木更津市および東金市においてそれぞれ事業説明会を開催して、市および関係団体、地域の関係者に事業を周知した。 事業説明会では、自治体、学校、関係団体及び保護者・地域住民を対象に事業説明を行った。 (1)木更津市:2021年11月30日 事前事業説明会開催、2022年3月17日子ども第三の居場所内覧会開催。 (2)東金市:2021年11月20日 事前事業説明会開催、2022年9月2日～3日子ども第三の居場所開所式開催(予定)。 | | | |

3.事業実施によって得られた成果

1. 2022年3月に木更津市の団体の法人化および子ども第三の居場所コミュニティモデルが開設されその運営が開始された。
2. 2002年9月に東金市のコミュニティモデルの開設が可能となった。
3. これまでの市、教育委員会、小中学校、児童福祉関係機関、関係団体との地域連携促進などの支援の成果として、2022年3月7日の講演会では東金市長はじめ自治体および多数の関係機関の方々が参加して交流の場を持つことが出来た。今後ともコミュニティモデルの視点を設置・運営する団体の組織基盤強化、事業改善や発展に向けた伴走支援を継続して各実行団体が地域の関係機関、団体等と連携が促進することを目指す。
4. 最終目標として、2025年3月までに木更津市および東金市のコミュニティモデル事業がそれぞれの強みを生かした自主事業づくり等により自立することを目指す。

4.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応策

1. コロナ禍の影響による工事遅延、資機材の高騰への対応
東金市の「子ども第三の居場所」コミュニティモデルは、国内外のサプライチェーン問題による影響を受けて当初予定していた工期より大幅に遅れる可能性があったが、施工者と監理者による事前準備や資機材調達に係る対策を講じたことで9月から子ども第三の居場所を開設できるように開設工事を完了させた。
2. 地域や団体の特性に応じた伴走支援
地域や団体の特性によって様々な状況に対応した伴走支援を行う必要があり、それぞれの特性に応じた支援が適切に行えるように日常的に連絡を取り合って必要な課題等に対処できる態勢にしている。
3. 実行団体の組織基盤強化と自立に向けた人材育成に向けた支援
実行団体の運営能力や自立に向けた人材育成に向けた支援を継続する。
① 専門家から個別に必要な専門的知識、専門家領域のノウハウを注入してもらう
② 研修会の開催（ボランティア研修、経理・経営、社会的インパクト評価・ファンドレイジング等）

5.事業成果物

(1)助成契約書記載の成果物名称

- ・建築物(写真等)
- ・事業報告書

(2)事業完了時の成果物名称

- ・2021年度事業報告書
- ・写真
 - ①木更津市 改修工事、送迎車両、テラス
 - ②東金市 開設工事
- ・講演会、チラシ類
 - ① 2022年3月7日 講演会 1200部配布
 - ② 2022年3月30日 木更津市 内覧会 500部配布

